

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第366回

蜷川実花

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年8月30日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

情報に踊らされずに、  
なりたい自分は自分で  
考えてほしい。

蜷川 実花は、日本の女性写真家、映画監督。クリエイティブ・ディレクターとしても活動し、美術、芸術、写真、映像、デザインなどのアートディレクションやインスタレーションを手掛ける。小山登美夫ギャラリーに所属し、芸能事務所はエイバックス・マネジメントと提携している。

## Column

今回の言葉にある『情報』とは、テレビやインターネットだけでなく、情報とは人から受ける言葉や態度も含まれると感じました。もちろんその人の言葉や態度は自分の理想に近づくと感じた情報を受けたことによるものである可能性は大いにありますが“踊らされず”という観点からいくと、あくまでも『その人はそういう自分でありたい』という数ある“思想”のひとつとして否定的に捉えず受けとめることが重要だと私は考えます。

何事にも動じず毅然とした対応ができる人。マルチな才能を持ち、その能力を発揮して様々な問題をクリアできる人。周囲からの賛同を得られる人望やパワーのある人。誰もが考える『なりたい自分』だと思います。私自身もそんな人に憧れ、自分もそうなりたいと思っていた頃がありましたが最近では向き合い方が変わりました。そのきっかけは、当時の私には“なりたい自分のお手本”のような人がいて、考えれば考えるほど当然ですが自分より優れている部分だらけで最終的には劣等感に襲われて辛くなり、ネガティブになってその人の落ち度を探して攻撃したくなったからです。焦りから心を失っていた自分に気づいた時に、今回の言葉にある『なりたい自分とは？』と考えたことがありました。人それぞれキャパというものがあります。まずは自分の思う思想・適性・環境など、最近の言い方を用いれば“スペック”“スキル”を分析し、今の自分はその内の何%使うことができているのか、自分にはどのような特性があってどこを伸ばしてどのように進むべきなのかを正しく理解することが重要です。スキルが高いからといって人間的なレベルが高い、高くなるとは限りません。多くの経験や努力をしていく中で、自分と人は違うことや抱えている痛み心を理解し、寄り添うといった正智深谷高校で常に心がけている“利他の精神”を大切に、穏やかで豊かな心を持ちながら進んでいくことができればきっと自然になりたい自分も、そこに向かう方法も見えてくるのかもしれない。努力することは大変です。“自分を育てる”という壮大なテーマに向き合うことこそが生きることの大きな意味のひとつなのでしょうね。